



あつまで
I LOVE ATSUMA
いきる。

苦小牧信用金庫厚真支店長
阿武 徹 さん (49歳)

「地域に愛される支店に」

平成27年3月から、苦小牧信用金庫厚真支店の支店長として勤務している阿武徹さん。阿武さんは、苦小牧市出身。千歳市長都支店の支店長から厚真支店に赴任し、地域に必要とされる金融機関をめざし手腕をふるっている。

札幌の大学を卒業後、中学生の頃から憧れであった銀行員として働くため、平成3年に苦小牧信用金庫に入庫した。銀行員の仕事の中でも憧れであった融資担当として本店や各支店に勤務。

休日の過ごし方は、「テレビで野球観戦をすること」と言い、自身も過去に苦小牧信用金庫のアイスホッケーチームの選手として汗を流していた時期もあり、スポーツマンの一面も垣間見られる。

厚真支店での勤務は入庫後、初めてとなる。厚真の印象は、「町民皆さん穏やかで優しく、良い人が多いと感じました。また、「とましんさん」と声を掛



けていただくことが多く、地域に望まれていると感じました」と話す。

地域に愛される支店づくりのため「気持ちよく来てもらい、気持ちよく帰ってもらう」をポリシーに、銀行員も含めて快いあいさつを心がけている。金融機関は地域のためにあり「人と人とのつながりが大事」と話す阿武さん。「何かあったら」とまじら」と思ってもらえるように、日々の業務でも支店が明るく活気にあふれ、今まで以上に地域に根差して行けるようにしたいと思っています」

ぼうさいコラム

Disaster Management Column

Vol.16 HUG研修会、始まりました



HUG研修会の様子

5月から7月にかけて、この春完成した「HUG(避難所運営ゲーム)厚真町版」の研修会を実施しています。今後町内で展開していくために、まず、開発に携わった方々と、町内の北海道防災マスターの方々で、教材の使い方を確認しています。じっくり取り組むと研修は一日がかり。疲労感と達成感を感じながら、毎回の研修を終えています。8月以降は研修会参加者と一緒に町内に出て行き、この教材を活用していただくお手伝いをしていく予定です。ご関心のある方々のお声かけをお待ちしています。



さだいけ ゆき
定池 祐季
東京大学大学院情報学環
総合防災情報研究センター(CIDIR)
特任助教

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学・防災教育。北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。

「医務室を作る」乳幼児向けの部屋を作る」などのアイデアを発表してくれました。そのしつかりした姿に先生方も喜んでおられましたし、学校教育の中でもHUGは有効な教材だというコメントをいただきました。

他地域で他のHUGを実施し、改めて、「HUG厚真町版」を地域で展開していくことが楽しみになりました。教材を通して、中高生や大人のみならず、避難所運営や地域の防災について語り合う時間を早く持ちたいと願っています。

>> 活断層型(直下型)の地震

平成28年4月14日と16日に熊本地方で連続して最大震度7の地震(「平成28年熊本地震」)が発生し、多くの尊い命が失われました。

今回の熊本地震は陸域の浅い地震で、活断層型地震とか直下型地震などと呼ばれるタイプです。このタイプの地震は、東日本大震災のような海溝型地震と比べると規模は小さいものの居住地域の近くで発生することが多く、緊急地震速報も間に合わず、狭い範囲で大きな被害が起きることがあります。

日本で地震が発生しない場所はありませんし、いつ襲ってくるかも分かりません。日ごろの備えが重要です。

熊本地震でもそうでしたが、地震で最初に人を襲うのは家具や建物です。タンスや食器棚などの固定、自分が住む地域の危険の確認、家族の連絡方法・避難場所の確認、水や食料などの備蓄など“その時”に自分の身を守るため、今できる備えから始めましょう。



気象台ノート



問い合わせ先 室蘭地方気象台 ☎0143-22-4249